(ｱ) 日常的な話題について，ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して，情報や考え，気持ちなどを整理して話して伝え合ったり，課題を解決するために話し合ったりする活動。また，やり取りした内容を整理して発表したり，文章を書いたりする活動。

(ｲ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について，質疑応答をしたり，聞き手を説得することができるよう，ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して，意見や主張，課題の解決策などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝え合ったりするディベートやディスカッションをする活動。また，やり取りした内容を踏まえて，自分自身の考えなどを，整理して発表したり，文章を書いたりする活動。

ウ　話すこと［発表］

(ｱ) 日常的な話題について，聞き手を説得することができるよう，情報や考え，気持ちなどを効果的な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また，発表した内容について，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

(ｲ) 日常的な話題や社会的な話題について，ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して，段階的な手順を踏みながら，聞き手を説得することができるよう，意見や主張などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝えるまとまりのある長さのスピーチやプレゼンテーションをする活動。また，発表した内容について，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

エ　書くこと

(ｱ) 日常的な話題について，読み手を説得することができるよう，情報や考え，気持ちなどを効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また，書いた内容を読み合い，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

(ｲ) 日常的な話題や社会的な話題について，ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して，発想から推敲（こう）まで段階的な手順を踏みながら，読み手を説得することができるよう，意見や主張などを効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また，書いた内容を読み合い，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

②　言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

3　内容の取扱い

「論理・表現Ⅰ」の３と同様に取り扱うものとする。

第７　その他の外国語に関する科目

1　その他の外国語に関する科目については，第１から第６まで及び第３款に示す英語に関する各科目の目標及び内容などに準じて指導を行うものとする。

2　高等学校において英語以外の外国語を初めて履修させる場合には，生徒の学習負担等を踏まえ，適切に指導するものとする。

第３款　英語に関する各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

1　指導計画の作成に当たっては，小学校や中学校における指導との接続に留意しながら，次の事項に配慮するものとする。

(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，具体的な課題等を設定し，生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら，コミュニケーションの目的や場面，状況などを意識して活動を行い，英語の音声や語彙，表現，文法などの知識を五つの領域（「論理・表現Ⅰ」，「論理・表現Ⅱ」及び「論理・表現Ⅲ」においては三つの領域。３において同じ。）における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

(2) 「英語コミュニケーションⅡ」は「英語コミュニケーションⅠ」を，「英語コミュニケーションⅢ」は「英語コミュニケーションⅡ」を履修した後に履修させることを原則とすること。

(3) 「論理・表現Ⅱ」は「論理・表現Ⅰ」を，「論理・表現Ⅲ」は「論理・表現Ⅱ」を履修した後に履修させることを原則とすること。

(4) 多様な生徒の実態に応じ，生徒の学習負担に配慮しながら，年次ごと及び科目ごとの目標を適切に定め，学校が定める卒業までの指導計画を通して十分に段階を踏みながら，外国語科の目標の実現を図るようにすること。

(5) 実際に英語を使用して自分自身の考えを伝え合うなどの言語活動を行う際は，既習の語句や文構造，文法事項などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。